

## 「リモートミーティング」の一年間を振り返って

「湘現会の会報」で、昨年12月から、継続してご案内していますが、「下記の趣旨」で2021年1月から、「毎月第2金曜日のpm1時30分～3時」の時間帯で開催、12月までに、合計12回実施済みです。

まずは、「この指とまれ」企画の一環として発足しました。定着すれば、「分科会」として位置付ける予定です。これはコロナ禍が収まり自由に会合を持てることになっても、実際に「会って行う集会の利点」と「リモートで行う集会の利点」を相互に補完しあう位置づけになることを期待するものです。

試行錯誤での手探りで「12回の感想」について、現段階では、「ひと言(こと)」で申し上げれば「言うは易く行うは難し」ではないでしょうか？

構成は「初めての試みなので、皆さんでいろいろと知恵を出し合い、とにかくやってみよう」と、前半30分は「主話題提供者」のお話し、後半30分は「時世の意見交換」などのスタイルで運営して参りました。

最初のころは、「時代の流れ」を反映されたのでしょうか？14～15人程度参加していただきましたが、常時目標とする「15人程度の参加」は、「会を重ねる」ごとに、若干減り気味傾向で、携わっている関係者の間で、「問題点把握」など、都度打ち合わせしつつ、対処を重ねて参りました。

その間、私自身も、「いろんな集まり」で、「リモートの良さ」などを、PRしてきたつもりですが、相手さんによっては、ご意見がまったく異なることもあったり、「食わず嫌い」などで、ご参加を躊躇されているのかと、得手勝手に推測したりして、頭を抱え込むことも多々ございます。

加えて、私事ですが、齢75歳頃から「両耳は全く聞こえず」で6年間、「補聴器」に頼りながら、「リモート時」に、「皆さんのお話しを聞き漏らさず」にとの努力も不安要素のほうが多くなり、このような状態では、早晚ご迷惑をお掛けするのは見えており、来年の1月からは、「代表の飯田さん」にお願いして、主宰の任を降りる事になりましたが、ちょっぴり残念な気持ちも致します。

生涯の信条として、「湘現会に入会して以来13年間」にわたっても、「まず実行！そしてレビュー！さらに一歩前進」を貫き、「リモートの良さ」については、「素晴らしいツール」とは、率直に認めますが、「使いこなす手段」がイマイチでは、なかなか楽しい雰囲気にならずにまで至っていないのが実感です。

「好きこそ物の上手なれ」との諺があるとおりに、まず利用者に、「好きになってもらうような手立て」を積み上げながら、地道な今後の活動が、軌道に乗る道筋であろうと思います。

令和3年12月吉日 堀河記